

## 『未踏』事業の活用を

—公益社団法人経済同友会、先進技術による新事業創造委員会、  
非 IT 企業によるデータサイエンティスト（DS）育成分科会で考える—

開倫塾

塾長 林明夫

**Q 1 : 「未踏」事業とは何ですか。**

A : 「未踏」事業とは、経済産業省所管である独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が主催し実施している「突出した IT 人材の発掘と育成」を目的として、IT を活用して世の中を変えていくような日本の天才的なクリエイターを発掘し育てるための、国の IT 戦略に基づく国家的事業です。

**Q 2 : 林さんは、この事業をどこで知ったのですか。**

A : (1) 幹事をつとめる公益社団法人経済同友会の、先進技術による新事業創造委員会の中に作られた非 IT 企業によるデータサイエンティスト（DS）育成分科会での活動の中で知りました。  
(2) 2000 年 11 月に始まって以来、これまでに、落合陽一氏はじめ 1600 名の、AI やデータサイエンスの分野で国際的に活躍する若手研究者やベンチャー企業者が、綺羅星のように数多く生まれ育ってきました。  
(3) この「未踏」事業の OB / OG を中心に「未踏社団」を設立し、創造的人材を多角的に支援、業界横断的なネットワークを構築。人材発掘、想像的キャリア支援、インフラ整備など、IT を活用してのイノベーションを支援しています。

**Q 3 : そもそもデータサイエンティスト（DS）とは何ですか。**

A : (1) 統計的手法を身に着け、情報科学的な知見と技術を自社の事業課題の解決のために活用することで、イノベーションや生産性向上をもたらし、企業の持続的成長を導く人材です。  
(2) これからの AI や IoT の時代に、最も必要とされる人材です。  
(3) とりわけ、グローバル化が遅れ、また、労働生産性の低い、非 IT 企業にはなくてはならない人材です。

**Q 4 : 子どもたちの教育の中にも取り入れたいですね。**

A : (1) その通りです。関心のある子どもたちには「未踏ジュニア」が超おすすすめです。  
(2) 「未踏ジュニア」事業では、独創的なアイデアを持つ小中高生クリエイターに対し、

各界で活躍する PM（プログラマネジャー）や未踏事業の OB / OG など専門家による指導、また、最大 50 万円の開発援助を行います。

(3) 必要に応じて、開発場所及び工作機械の援助を行っています。また、未踏ジュニアスーパークリエイターに認定されると、翌年以降に IPA 未踏事業に応募する際に、条件付きで一次審査が免除されます。慶應義塾大学 SFC の AO 入試出願資格の認定など、入試にも有利です。

**Q 5 : 情報セキュリティに関して、未踏の取り組みはありますか。**

A : (1) 「セキュリティ・キャンプ」があります。

(2) 「セキュリティ・キャンプ」は、若年層に対して情報セキュリティに関する高度な技術教育を施すことで、次代を担う情報セキュリティ人材を発掘・育成する事業です。

(3) この事業の参加者には、情報化社会の中で複雑多様化する脅威に対処することのできる人材として、社会の様々な場面で活躍することが期待されています。

(4) 「セキュリティキャンプ」には、8 月中旬頃に、3 泊 4 日、全額無料で、22 歳未満の学生を対象に合宿形式で開催される「全国大会」があります。

(5) また、25 歳以下の学生を対象にした 2 日間の「地方大会」や、学生以外の一般を対象にした「一般講座」もあります。

**Q 6 : サイバーセキュリティは、どの規模の企業でも大切ですよね。**

A : (1) 企業をはじめとするすべての社会インフラに、驚異的なダメージを与えるサイバー攻撃のリスクが激増しています。

(2) この「未踏」事業を管轄する情報処理推進機構（IPA）では、事業の大きな柱として「産業サイバーセキュリティセンター」を設立。

(3) 「中核人材育成プログラム」で、本格的な産業サイバーセキュリティ人材の育成を行っています。

(4) 同時に、短期プログラムとして

①「国際トレーニング」

②「業界別トレーニング」

③「サイバーセキュリティトップセミナー」

④「戦略マネジメント系セミナー」

などを行っております。

(5) 修了者コミュニティ（OB 会）も発足。連携強化を図っています。

**Q 7 : 学習塾、予備校、私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。**

A : (1) 非 IT 企業としてデジタル変革をどう推し進めるか、その中心的な推進者としての「デジタルサイエンティスト（DS）」をどう確保し、育成したらよいか。

(2) この議論の前提として、そもそも、自らの組織に本当に必要なデータとは何か。また、情報を、いつ、誰が、どこで、何のために、どのように収集したらよいかを 5W1H で考える必要があります。

- (3) 是非、「未踏」事業、「未踏ジュニア」、「セキュリティキャンプ」、「サイバーセキュリティ中核人材育成プログラム」など、IPAのHPをじっくりご覧になり、積極活用をご検討ください。

**Q8：最後に一言どうぞ。**

- A：(1) お気付きとは思いますが、今月号の話題は、先月ご紹介させていただいた「スマートシティとは何か—会津若松市で考える—」の続きです。会津大学、会津若松市のHPで、スマートシティの最先端の動きをご確認ください。
- (2) 今月も、お読みになれば必ずお役に立つ本をご紹介します。1冊目は、「未踏」OBの西尾泰和著「エンジニアの知的生産術—効率的に学び、整理し、アウトプットする」技術評論社2018年8月24日刊です。エンジニアの方でなくても、十分に理解できます。渡部昇一先生の名著「知的生産の方法」と併読すると、本著の素晴らしさがわかります。
- (3) 2冊目は、元東京大学総長の佐々木毅著「シリーズ時代を語る 知の創造を糧として」さきがけ新書、秋田魁新報社2017年6月19日刊です。佐々木先生の簡単な伝記です。「よみがえる古代思想、『哲学と政治』講義Ⅰ」「宗教と権力の政治、『哲学と政治』講義Ⅱ」「プラトンの呪縛」「マキアヴェッリと『君主論』」（すべて講談社学術文庫）など、先生の著作を理解するのに役に立ちます。大家の著作を理解するには、たとえ簡単なものでも、その先生のお書きになった伝記を読むのが役に立ちます。
- (4) 3冊目は、T.S.エリオット作「キャッツ—ポッサムおじさんの猫と付き合う法」ちくま文庫、筑摩書房1995年12月4日刊です。原著「Old Possum's Book of Practical Cats」と合わせて読むと、ミュージカル「キャッツ」がますます好きになります。
- (5) 読書の秋には、シェイクスピアが一番。4冊目のおすすめは、シェイクスピア、河合祥一郎訳「新訳 から騒ぎ」角川文庫、角川書店2015年7月25日刊です。キャッツやシェイクスピアを読む第一歩は、登場人物のページを絶えず見ながら読み進めることです。今年の秋から冬には、一作でも多くのシェイクスピアの作品に是非ご挑戦を。

2018年9月23日（日）記

\*開倫塾塾長

\*公益社団法人経済同友会幹事